

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 0773200563
法人名	有限会社 秋桜
事業所名	グループホーム虹の家
所在地	福島県双葉郡浪江町大字立野字根渡183番地 (電話) 0240-34-0180

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町竹の花 20
訪問調査日	平成19年 8月 23日

【情報提供票より】(19年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 15 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	2 人
常勤換算	5.0

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,500 円	
敷金	有(円) ■無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ■無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(8月7日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.7 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 西病院 山村デンタルクリニック
---------	----------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南向きに建てられた和風家屋は、内部のリフォームを感じさせないほどの懐かしい情景である。前方に広がる田園からは心地よい開放感が得られ「虹の家」の名の由来にふさわしい個人を尊重した自立ある支援は、「自分らしく暮らす」ことへのこだわりが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回達成できなかった点を職員全員で改善策を検討し、具体的実践に努めていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は、評価の必要性を認識し積極的に取り組む姿勢がみられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前回の評価を受け止め介護支援、計画、見直しは勿論のことハード面に対しても改善策を追求して実践していた。また、運営推進会議の中で、多方面からのアドバイスにより自らのサービス向上を図っていた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 開所3年間職員の離職者が無いため顔馴染みの職員の統一したケアが安心感を得られている。苦情相談窓口体制と面会時に要望、意見を聞く機会を作っているが今までに不満や苦情は無い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の自治会に加入し可能な限りの活動に参加している。また、周辺に農家が多く旬の野菜や果物を持参されることで交流し孤立防止につながっていた。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を常に念頭に置き支援にあたっていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、確認できる場所に掲げており職員は十分に理解している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、行事など可能な限り参加している。また、隣接する農家の方が差し入れに気軽に訪所してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で要改善策を職員間で検討し、具体的に実践していた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、意見交流により、より良いサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
/////////					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	機関紙を年2回発行、送付し暮らしぶりを報告し、健康状態は通院結果を個別報告している。金銭管理及び支出に関しては面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を聞き取る体制ができており、それらを反映させているため現在までに不満などの苦情はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設3年間職員の離職がなく顔馴染みの職員によるケアが受けられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修を受けており全職員が共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し同地区研修会や職員の交流研修を設けて相互の質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人、ひとりの個性を活かして日々の生活の中でお互いに学びあう関係づくりを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時及び面会時などに聞き取り調査で把握し一人、ひとりが望む生活をできるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望の意向を確認しながら利用者本位の介護計画作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を把握し、医療機関との関わりを継続している。家族同行が不可能な時には職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のケアについて、意志確認書を作成し全職員が周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を保った言葉かけや一人ひとりに合った誘導の声かけがされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしい暮らしぶりを柔軟に対応していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、利用者の力量に合わせて声かけし職員と利用者が同じテーブルを囲んで、自家菜園野菜の話題で会話がはずみ、楽しい雰囲気の中で食事していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴の声かけし、時間帯や入浴の長さは個人の意向を尊重していた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう各場面でさり気なく声かけ支援していた。又、余暇時間にトランプやゲームなどで楽しみ事を工夫支援していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、地元の催しごとに合わせて、出かけている。車椅子の方にもその日の希望に応じて戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊などの行動障がいをとる入居者がいないため日中は鍵をかけずに自由に入出りが出来開放的である。夜間は防犯上全ての出入り口、窓に鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもとで、夜勤者一名を想定した避難誘導訓練を実施し定期的に訓練を行うことで意識付けをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、大体の量を把握し摂取量の少ない入居者に対しては記録していた。水分はお茶のほかに牛乳も取り入れて栄養管理に努めていた。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るいリビングには、調和のとれた家具類や季節の花々と、愛らしい装飾品がおかれ和の空間もあり、入居者は好きな場所でくつろいでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類・カーペットなど馴染みの品を持ち込んでもらい使いやすいように整理整頓されていた。位牌の持ち込みには、簡易的な仏壇を作るなどして、その方らしさを尊重した居室になっていた。		

3、 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 虹の家

記入担当者名 佐山 岩雄

評価結果に対する事業所の意見

意見はありません。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。